

アブラハヤ *Phoxinus lagowskii steindachneri* (コイ目コイ科)



写真:和田 吉弘

生態情報

I からだの特徴

体の長さが 10cm ほどのコイ科^{たんすいぎょ}の淡水魚です。からだの色は黄色^{かつしよく}っぽい褐色で、体の横側に小さな黒い斑点^{はんでん}がすじ状に見られます。タカハヤとはよく似ていますが、アブラハヤは尾ひれの付け根^{はば}の幅が細く、スマートに見えます。

I すみ場所

本州^{ほんしゅう}のみに分布し、太平洋側^{たいへいようがわ}は青森県から、日本海側^{にほんかいがわ}は青森から福井県までの各地^{かくち}に分布します。河川^{かくち}の中流^{ちゅうりゅう}から上流^{じゅうりゅう}や湖沼^{こしやう}にすんでいます。流れの緩やかなところ^{ゆる}が好きで、河川^かでは岸^{ふち}ちかくに群れていることが多いです。

I 生活のようす

産卵期^{さんらんき}は春から夏で、水温の高くなる平地^{さんらんばしよ}ほど早く行われます。産卵場所^{さんらんばしよ}は、流れ^{ゆる}の緩やかな砂や石の混じった川底^{しゅうたん}で、集団^{えさ}で行います。餌^{すいせい}は水生昆虫^{しゅうへん}やミズ、周辺^{しゅうへん}の林^{はやし}から落ちる昆虫^おなどを食べますが、藻^{こんちゅう}や種^たなど植物質^ものものも食べる^{しょくぶつじつ}雑食性^{ざっしよくせい}です。

参 考

河川^かに最も広く分布する魚類^{ひょうめん}の一種です。体の表面^{ひょうめん}がヌルヌルしていて、つかみにくい魚で、名前は^{けいりゅうづ}このヌルヌルがアブラ^{ぬす}のようなことから名付けられました。ヤマメなどを釣る^{ぎょ}溪流釣り^{きり}では、釣り人^{ぎょ}から餌^{ぎょ}を盗^{ぎょ}む雑魚^{ぎょ}として嫌われます。

ウグイ *Tribolodon hakonensis* (コイ目コイ科)

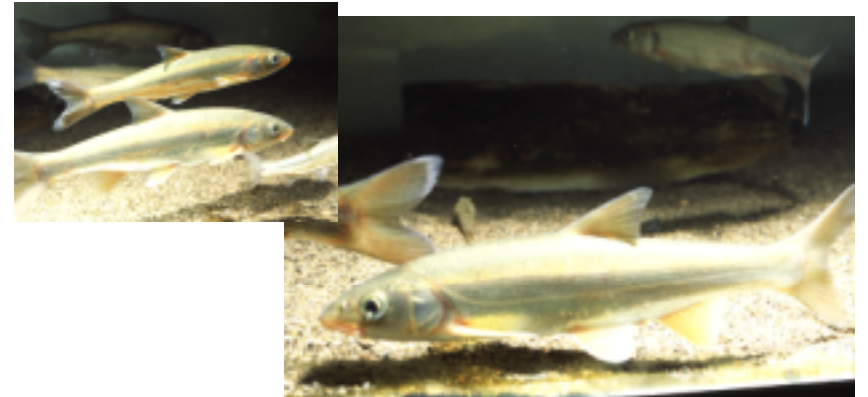


写真:和田 吉弘

生態情報

I からだの特徴

からだの長さが 20~30cm ほどのコイ科^{たんすいぎょ}の淡水魚です。からだの色は背中^{はいかつしよく}がやや灰褐色^{ぎんいろ}で、そのほかは銀色^{さんらんき}で、産卵期^{さんらんき}には体の横にオレンジ色のライン^みが見られます。このライン^{さんらんき}は産卵期^{さんらんき}にはっきりするので、婚姻色^{こんいんしよく}と言われます。

I すみ場所

ほぼ日本全国^{ふんぶ}に分布します。河川^かの河口^{かう}から上流^{じゅうりゅう}や湖沼^{こしやう}にすんでいます。流れ^{ゆる}のやや緩やかなところ^{ふち}が好きで、河川^かでは淵^{ふち}やその近く^むに群れていることが多いです。

I 生活のようす

産卵期^{さんらんき}は春で、本州^{ほんしゅう}では桜の咲くころと同じです。産卵場所^{さんらんばしよ}は、瀬^{さんらんばしよ}の石の川底^{しゅうたん}で、集団^{えさ}で行い、特に雨のあとに水が増えた時などは集中して産卵^{えさ}します。餌^{すいせい}は水生昆虫^{しゅうへん}や周辺^{しゅうへん}の林^{はやし}から落ちる昆虫^おのほか、藻^{こんちゅう}など植物質^ものものも食べる^{しょくぶつじつ}雑食性^{ざっしよくせい}です。

参 考

河川^かを代表する魚類^{ふつう}で、各地^{ふつう}に普通にみられます。河川^かに生息し、産まれてから海^{うみ}に下るものと海^{うみ}に下らず河川^かで一生を過ごすものがありますが、北陸地方^{ほくりくちほう}の上流^{じゅうりゅう}域^{いき}に生息するウグイ^{うぐい}は一生を川^かですごす生活^{くわ}をしています。

ニッコウイワナ *Salvelinus leucomaenis pluvius* (サケ目サケ科)



現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの長さが30～60cmのサケ科の淡水魚です。腹部を中心に^{たんすいぎょ} 腫^{ふくぶ}と同じ大きさ^{ちゆうしん} かのや大きい、黄色やオレンジ色の^{はんてん} 斑点が見られます。ただし、地域や河川によ^{ちいき} って、からだの^{はんてん} 斑点の大きさや色具合が^{こと} わずかに異なります。

Ⅱ すみ場所

本州の山梨県富士川および鳥取県日野川以北の各地に分布します。ただし、ほかのイワナ類との分布の境界はあいまいです。岩の間で水面がわずかしき見え^{いんりゅういき} ない源流域から河川上流域、山あいの湖沼にすんでいます。

Ⅲ 生活のようす

産卵期は秋で、ブナなどの紅葉と同じ頃です。卵は直径5～6mmです。餌は川虫(水生昆虫)やミミズ、周辺の林から落ちる虫などを食べますが、そのほか小魚やサンショウウオなど、流れてくるいろいろなものを食べます。

参 考

溪流の水中での生態系の上位種であり、溪流を代表する魚類です。松本砂防管内の上流部などでは、ニッコウイワナのみがすむところが多いです。溪流釣りの対象種で、かつては幻の魚などと呼ばれたこともありましたが、現在では放流されているところも多く、溪流釣りの代表種となっています。名前は、よく岩の隙間に潜むので、岩魚(いわな)からきています。

ヤマメ *Oncorhynchus masou masou* (サケ目サケ科)



現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの長さが20～30cmのサケ科の淡水魚です。体はやや平たく顔先がま^お るく、尾びれの切れ込みも^{すこ} 少^{ふか} 深いです。アマゴと似ていますが、ヤマメにはアマゴにある^{しゅしょうてん} 朱小点(赤い点)はまったく見られません。

Ⅱ すみ場所

山口県以北の日本海側と千葉県以北の太平洋側に注ぐ河川及びその上流に分布し、北陸地方の溪流では最も一般的な魚です。海に下り大きくなって川を上ってくるものをサクラマスと呼びますが、同じ種類です。

Ⅲ 生活のようす

産卵期は10月中旬～11月上旬です。卵は直径5～6mm、淡い黄色です。サクラマスが上る川では、サクラマスと河川上流に生息するヤマメの間で繁殖が行われます。サクラマスの上らない河川では、ヤマメ同士で繁殖します。餌は川虫(水生昆虫)などを食べます。

参 考

溪流の水中での生態系の上位種であり、溪流を代表する魚類です。松本砂防管内の上流から中流部に広く生息しています。ニッコウイワナとともに、溪流釣りの代表的な対象種で、塩焼きにするとおいしいです。名前は、美しいからだつきと色なので、山女(やまめ)から、名付けられました。

キザキマス *Oncorhynchus masou subsp.* (サケ目サケ科)

(写真準備中)

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの長さが 30 cm のサケ科の淡水魚です。体はやや平たく、全体にサクラマス(ヤマメの海に下るタイプ)によく似ています。

Ⅱ すみ場所

木崎湖にのみ生息します。本来は、信濃川から犀川を経て川を上っていたサクラマスが、千曲川にダムが建設されたことにより、木崎湖に陸封(本来は海と行き来する魚が川や湖などの淡水域に封じ込まれたこと)された湖沼性のマスと考えられます。

Ⅲ 生活のようす

ケンミジンコのような動物プランクトンやヌカエビのような小動物を食べるといわれています。プランクトンなどを食べているので、沿岸部を回遊しているものと考えられます。

参 考

木崎湖には琵琶湖に生息するビワマスやヤマメが放流され、現在ではこれらのマス類と混血しているという説もあります。

木崎湖は、釣り場所として人気があり、コイ、フナやブラックバスなども放流されています。

カジカ (大卵型) *Cottus pollux* (カサゴ目カジカ科)



現地撮影

生態情報

Ⅰ からだの特徴

からだの長さが 10～15cm のカジカ科の淡水魚です。からだの色はうすい褐色から濃い褐色までいろいろあり、体側には4～5個のやや黒い模様があります。ハゼと似ていますが、腹側のひれは吸盤のようにはなっていません。

Ⅱ すみ場所

北海道、本州、四国、九州に分布しています。主に河川上流から中流の石の間にすき間が多い川底にすんでいます。

Ⅲ 生活のようす

産卵期は3月中旬～6月上旬です。卵は直径2.5～3.7mm ほどの不透明な卵で、石の下側に産み付けます。産卵後に、オスは卵から仔魚(子供)が孵化(卵から出ること)するまで卵を守ります。餌は肉食性で主にトビケラなどの川虫(水生昆虫類)の幼虫を食べます。

参 考

きれいな河川や溪流を代表する魚類です。河川に生息し、生まれてから海に下るもの(小卵型:卵が小さいタイプ)と海に下らず河川で一生をすごすもの(大卵型:卵が大きいタイプ)がありますが、北陸地方の上流域に生息するカジカは一生を川で過ごす生活をしています。